

分かる快感！

Z会ナビ

算数 理科 歴史 地理

お題

江戸時代の歴史書づくりには どんな意味があるの？

(東京大学 2003年 日本史)

「Z会ナビ」が

Webサイト

でも読めます!



Z会おとナビ新聞

検索

これまでの内容も掲載しています!

17世紀後半になると、歴史書の編纂がさかんになりました。幕府に仕えた儒学者の林羅山・林鶯峰父子は、神々の時代から17世紀初めまでの歴史を年代順にまとめた「本朝通鑑」を完成させました。また、水戸藩では徳川光圀の命により「大日本史」という歴史書の編纂がはじまり、儒学者の山鹿素行が戦国時代から徳川家康までの武士たちの歴史を記した「武家事紀」を著すなど、多くの歴史書が作られました。

17世紀後半に、なぜ歴史書の編纂がさかんになったのか、当時の江戸幕府の動きと関連させて、説明しなさい。

今回は、江戸時代がはじまって数十年たったころの17世紀後半のお話です。この時期になぜ歴史書がたくさん作られたのか、その理由をさっそく探っていきましょう。

「戦士」から「政治家」へ

江戸幕府が開かれる前は戦国の世、強い者が弱い者に勝つ世界でした。上に立つ者は自らの強さ、武力を見せることで、下の者に対して権威を維持していたのです。自分より強い者に逆らったり、敵に回したりしたら自分の命が危なくなりますので、どんな人にもわかりやすい基準ですね。

その後天下統一がなされ、江戸幕府が開かれました。幕府が開かれた直後は、徳川家康も、自分の意に反する武士を容赦なく弾圧するなど、自らの武力の強さを誇示するような政治を行いました(これを「武断政治」といいます)。



イラスト・瑞樹 匠

正統性を示す ということ

つい先日まで戦国の世で刀を交えていた武士ばかりの世を治めるには、徳川家も「天下」の武力を見せつける必要があったのです。

しかし、数十年時代が下り17世紀後半になると、政治もだいぶ安定し、武士たちには「戦乱の世を治める強い武力」ではなく、「平和な世を治める徳と知性」が求められるようになりました。「徳で世の中を治める」という政治を文治政治といいます。この考え方は中国で生まれた儒教という教えがもととなっています。平

和な世を治めるにあたり、江戸幕府は儒教の教えを取り入れることを選び、多くの儒学者を取り立てました。そして、武士たちに儒教の教えと「戦う者」ではなく「政治を行う者」としての自覚を根付かせるために、多くの歴史書を作ったのです。

由緒が正しいことを示す

また、歴史書にはもう一つ重要な役割がありました。それは「自分たちの正統性(由緒正しさ)を示すこと」です。古代より政治の中心にいる天皇家も自らが神々の末裔であることを「日本書紀」などの歴史書で示しています。このように、歴史書で正統性を示すということは、この時代に限らず行われておりました。

徳川家康も、日本初の武士政権である鎌倉幕府を開いた源氏の末裔であることを示す家系図を作り、源氏姓を名乗り、自らの正統性を示していました。圧倒的な強さがものをいった武士の世でも、「由緒正しいこと」も重視されていたことがわかります。【Z会・河原井彩】

！今回の教訓

織田信長や豊臣秀吉も平氏姓を名乗ったといわれています。歴史上の有名な人物の家系図を見てもみるのも楽しいですね。



河原井彩さん 2007年にZ会入社。大学受験用の日本史、政治・経済の教材編集を経て、現在はデジタル技術を使った未来の教材を考えています。新潟県生まれの埼玉県育ち。